

第三セクター等経営健全化方針

この方針は、相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する山江村が、当該第三セクター等の抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和5年11月1日

作成担当部署 山江村企画調整課

2 第三セクター等の概要

法人名 株式会社やまえ

代表者名 代表取締役 内山 慶治

所在地 熊本県球磨郡山江村大字万江甲 423 番地

設立年月日 平成20年7月1日

資本金 13,000 千円【山江村の出資額（出資割合）10,800 千円（83%）】

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

株式会社やまえは、山江温泉ほたるを運営する株式会社山江ふるさと交流センターと、山江村物産館ゆつくりを運営する有限会社やまへの2法人が経営統合し、平成20年7月1日に設立された。

主な事業として公衆浴場、宿泊施設、飲食店の経営、農林水産物の加工販売や、特産品の販売を行っており、介護支援事業の一環としての高齢者の生きがいくりの場として福祉施策の向上の一端も担っている。

平成22年度から平成27年度にかけて6期連続の赤字経営が続いたことにより、平成26年に新たな人事体制での再出発、同年12月に公衆浴場の大幅リニューアル及び食事宴会メニューの刷新、平成27年度には地方公営企業等経営アドバイザーを招聘し、経営改善に対する提案を受け、平成28年度に本村職員を当法人の再建担当として任命し、不採算部門の物産館ゆつくりの山田店を閉店や人件費の抑制、原価見直しを実施し、抜本的な経営改善策を断行した。その結果、同年の決算は7期ぶりの黒字回復となった。

継続的な黒字経営を目指し、経営支援に関する調査検討特別委員会の発足、定例会への参画など積極的に経営状況の監察を行っていたが、令和元年からの世界的な新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行を発端とする来館数の減少による売り上げの減少、燃料高騰や物価高を起因とする経常経費の増加に伴い、令和4年度の決算で再び純利益の赤字となり債務超過法人に該当することとなった。

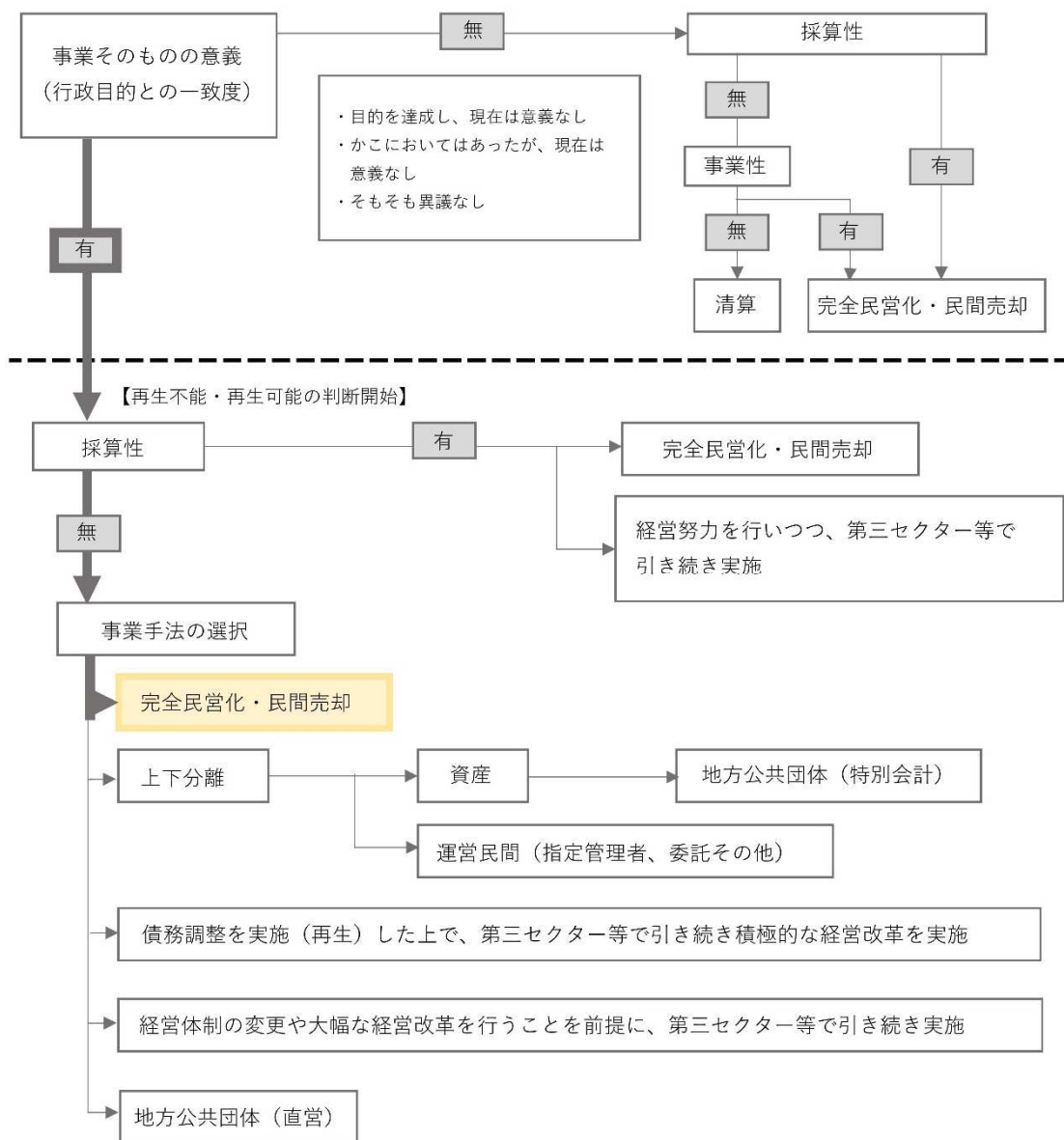
4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

当法人は、村内唯一の温泉施設や特産品の加工施設を有し、観光拠点となる施設であるとともに、福祉政策事業の提供の場としての役割を担っており、本村においては交流人口の拡大の場としても非常に重要な拠点となるものである。

よって、今後は観光と産業及び福祉分野の横断的な連携を図るための具体的な取り組みや、施設の計画的な管理を考慮しながら、下記のフローチャートにより検討する。

【抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討のフローチャート】

（「第三セクター等の経営健全化等に関する指針」平成 26 年 8 月 5 日付 自治財政局長通知別紙 2 より）



フローチャートにより、事業そのものの意義はあるものの採算性は無と判断し、事業手法の選択として、完全民営化または民間への売却を検討することとした。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

現在は指定管理制度を利用し、民間企業ならではの経営手法により事業の独自性を期待しながら施設の運営や管理業務を委託しているが、指定管理という立場が逆に足かせとなり、思い切った事業の実施が困難な状況でもあると感じている。

企業努力により、長年据え置いてきた温泉料金や宿泊料、そして物産部門の主力である、くりまんじゅうやびっくり団子の値上げも実施し経営改革に関与してきたが、サービスの質は落とさず、利用者満足度の高い施設として、職員の意識改革にも努めたい。

また、施設の建設から相当年経過し、施設の老朽化による修繕も毎年実施しており建物としての抜本的改革も視野に入れ、時代に即した大幅リニューアルや建替えを実施することにより、集客力を高めることで経営改善が図られると考えられる。

(参考)

6 法人の財政状況

貸借対照表から	項目	金額（千円）		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	資産総額	68,751	57,736	43,597
	（うち現預金）	(40,114)	(28,229)	(15,183)
	（うち売上債権）	(6,661)	(9,468)	(7,495)
	（うち棚卸資産）	(16,352)	(15,230)	(17,595)
	負債総額	55,637	53,433	58,283
	（うち当該地方公共団体からの借入金）	(4,000)	(3,000)	(2,000)
	純資産額	13,114	4,303	△14,686

損益計算書から	項目	金額（千円）		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	経常収益	83,870	102,327	104,812
	経常費用	107,925	116,183	130,548
	経常損益	△24,055	△13,856	△25,736
	経常外損益	15,312	6,903	6,930
	当期純損益	△8,743	△8,629	△18,806

※当期純損益は税引き前